CSRの情報紙

季刊プレンティア

2019年 夏号 vol.13

・ひとの営みと自然とが共生する、豊かな森に再生しよう
・豊かな生物多様性を抱える森本来の生態系を回復しよう
・清らかな水や空気を生み出す森の公益性機能を高めよう
・エコ・カルチャーとしての森づくりの楽しみを広めよう
・日本の原風景を蘇らせて、自然との共生の原点を学ぼう

発行：NPOプレンティアの森
静岡県浜松市中区高林5丁目11-6
http://plenteer.com/

N.P.O. プレンティアの森®

リサイクルクリーンの森 ＊ アイジーの森 ＊ 丸山コーポレーションの森 ＊ 不二総合の森＊アツミテックの森
エフ・シー・シーの森 ＊ MAPの森 ＊ 体験の森　協賛：浜松いわた信用金庫・株式会社サカエ・株式会社アキュラホーム
AGS清風会・光産業創成大学院大学・ユニオン印刷株式会社・株式会社ハウストラッド・小林クリニック・株式会社ウチゲン・里山産品プロジェクト・静岡県西部森づくり協働推進協議会・N. P. O. 小堀谷の里の会

ほんとの地球が見えてくる。

PLENTEER FOREST

p2 特集 「絆の集い」事前施業

p3 イベントレポート アキュラホーム

p4 TOPICS コンセプトブース誕生

どこへ消えたか ガキ大将！

ポケットの椎の実を齧りながら
君が、道端の草を苅ったのは、
環境美化じゃなくて、兎の為だ。
その兎だってペットなんかじゃなく、
やがては食べ物になる命だと知っていた。

小川の釣りは哀しい遊びだった。
釣果はいつも食卓に載っていた。
だから、かじかんだ君の手の中で
震えて絶えてゆく小さな命の終わりに
いくつも立ち会ってきたんだ。

そうして君は、
自然の摂理の《せつなさ》を
じっと抱き込んで育った。

戻って来い、ガキ大将。
時代は今、君を必要としている。

おかげさまで これからも…

20th 1998～ PLENTEER FOREST

CURRY STAR水野仁輔氏が
「第８回 絆の集い」にて
ライブクッキング

G.R サポータークラブの名誉大使でもある水野仁輔さん（写真）が「絆の集い」でライブクッキング！大人気のカレー研究家のカレー作りを、見て味わえる、またとないチャンスです。
昨年、仁輔さんが出演し話題になった『趣味どきっ！』のカレーシリーズも８月～９月の８週連続で再放送されますので、カレー好きの方もそうでない方も、ぜひご覧ください。

蘇れ、日本の原風景

連載 森のエコラム

半世紀のマーケティングの視野に映った
甦れ！日本の原風景（7）
目的としての豊かさ

より高価な食材を手に入れ、より有名な塾に通わせる為に所得を増やす事は豊かさの実現であっても、野菜を栽培する知識、釣りの技術、子供に直接教える知識、それらを手に入れる為に使われる時間は、豊かではない暮しがもたらす消費なのでしょうか？
ひとつは産業革命以来のパラダイムのままの拡大再生産のスパイラルで、「増大する余暇時間を更なる労働に向けて、手に入れた金をモノやサービスといった消費に回して豊かさを得る」という価値実現の手法です。もうひとつは全く新しいパラダイムであり、増大した時間を金銭に替えずに価値実現の対象に直接向けて豊かさを得るという考え方なのです。
こうして比べてみると前者の方が後者に比べてはるかに合理的、効率的な手段であるかということが分かるでしょう。それに対して後者の価値観が成果を生み出す為のプロセスは、決して“手軽で便利で簡単”という訳には行きません。多くの知識や技術などが必要となり、手間もヒマも掛かるはずです。
しかし、この「目的としての豊かさ」は、その面倒な手段そのものが価値実現をする訳ですから、反って合理的、効率的であるとも言えます。ここに述べた２つの価値実現の手法について、同様な分析を環境倫理学者の鬼頭秀一は、自著「自然保護を問い直す—環境倫理とネットワーク」の中で次の様に表現しています。要約すれば、
１）自然保護や保全は共にヒトのなす行為であるから自然そのものの生態を、自然とヒトとの関係の中で捉えるべきである。
２）そう考えた場合のヒトと自然とは“文化的・宗教的”、“経済的・社会的”ふたつのリンクを持つ。
３）これらふたつのリンクが工業化社会の進展の、主に都市の生成によって分断されて来たのが環境破壊の最も大きな要因である。
具体的な例えとして、渓流釣り旅行者と里の釣り人を比べてみましょう。方や休日、方や農閑期の、ともに“楽しみ”であるにしても、渓流釣りの旅行者の目的には、社会的・経済的な価値感の入り込む余地は少ないのに対して、里の釣り人の渓流釣りにはかなりの比率で社会的・経済的な価値が占めているという事は容易に想像がつく事でしょう。…としたら、持続的な環境の維持はどちらにとって、より切実な問題として抱える事になるのでしょうか。

あと１週間！

「第７回 絆の集い」事前施業

開催日　令和元年7月6日
場　所　森づくりの広場　他
参加者　9名（スタッフ5名）

このところの雨続きで林道は荒れて、森に入るのもままならない中、7月6日には絆の集い開催に向けての事前施業を実施しました。参加したのは森づくりCSRトラストの正副代表幹事さんを始め4人の幹事さんとプレンティアの森のリーダー、合計9名。
雨は小康状態でしたが湿気がものすごく、雨に降られたような汗。熱中症が心配な程に作業に熱中。

本日の Mission

1. 林道修復
2. 会場整備
3. エコダムの素材確保

林道補修
北村リーダー大活躍

なにしろ陸自 OB で、ツルハシさばきには災害支援で慣れたもの。排水路まで作るという念の入れよう。

会場整備
マン＆マシンのコラボ

雨続きで荒れるのは地表、喜んで伸びるのは雑草。ことに丸葉イチゴは地表を這い回るから、草刈り機に絡み付く…となると、やはり人力とのコラボが重要ですね。

エコダムの素材づくり
安全な森づくり C.S.R. 活動の為に

伐木作業はすべて資格者だけで構成されるプレンティア先鋒隊の仕事。樹間を空けて林床に光を届かせる森林再生の外科手術です。そしてこの伐倒木は生態系再生の重要な資源です。

コッチも大事！

森んピック 競技ステージ設営

選木をして伐採。さらに玉切りの後縦引きにして、運んで設置

ここらの木がいいら？

出来上がり！

「第８回 絆の集い in 小堀谷」チラシ

曇天にもめげず…

昨年好評だった森んピック競技を体験しようということでしたが、恰めてみると結構な盛り上がり。大のおとなのガチな取り組みも！

飛ばした後は、みんな祈りのポーズに。

今年のドクダミ

一昨年はドクダミ茶が作れる程、広場脇に群生していたのに…今年はたったのこの一輪。イノシシが根をほじったか、一昨年の乱獲か？

量だけは充分？

…とはいえ、瞬く間に消える。あわててカメラを向けたのですが無情にも手で遮られる恰末

飛ばし方の研究に余念のないお二人。
「おっ！これはなかなかイケてるら～」

来週、天気にな～れ！

創知遊食

初夏のプレンティア

プレンティアとは

個人的な楽しみ（pleasure）を、社会的な価値の創造（volunteer）につなげようという主旨の運動の創始者による造語です。工業化社会の出現とともに失われた自然と共生する暮らし方と、その喜びを蘇らせ、その個人的な楽しみを通して、高い炭素の吸収効果や、豊かな生物多様性の回復など、多様な社会的な価値の創造に結びつけようという呼びかけです。

森づくり CSR とは

地球の温暖化や生物多様性の崩壊など、ヒトの営みの自然生態系への影響はヒト社会全体が担うべき最大の責任です。ことに大気中の炭素の吸収は森林にしか出来ません。森づくりＣＳＲとは、企業が森の再生を通してその責任を率先して果たそうというものです。プレンティア方式の施業は、楽しめるレクリエーションとして、福利厚生事業としても活用されています。

継続は力なり！アキュラホーム恒例の植樹祭

未来へ育む、お客様との絆

顧客のみなさんを招待し、毎年行なっている植樹祭。アキュラホームのスタッフさんは、お客様に興味を持ってもらえるよう事前にオリジナルのチラシを作成し、当日は木や森に関するウンチクを交えながら、エコダム作りから植樹まで楽しく安全に進められるよう、しっかりとリードしていきます。お客様と共に森づくりを体験することで、森や自然に対する関心が深まると同時に、お客様との絆もより一層深まっていくようです。

「そうそう、根元の土はギュウギュウ押してね」。アドバイスもしっかりと

50人分のパエリヤ。彩りも良く美味しそうにできています♪

毎回大好評のグリルドチキン。ニンジンの甘さがハンパない！

よく頑張りました！

プログラムを終えてグッタリ気味だったみなさん。最後は達成感あふれるキラっキラの笑顔☆

天竜小麦谷 体験公園

令和１年５月25日開催
アキュラホーム
植樹祭
49名参加（スタッフ７名）

竹とんぼ作りに挑戦！大人も子どもも夢中です

出てこい、チャレンジャー！

森んピック公認仕様の竹とんぼ

伝承遊びが、環境教育の原型となり得るという事は環境倫理学上の常識です。
…という訳で伝承遊びの代表、
作って遊んだ、竹とんぼを競技にしました。
競技規則（無料）と、素材セット（頒布販売）は、プレンティアの森のコンセプト・ブースにあります。

ひとこと

アキュラホームイベント参加

Tさんファミリー

普段自然と触れ合う機会がないので、いい経験ができました。子供たちはカニを捕まえたことが楽しかったようです。来年も参加したいです。

アキュラホームイベント参加

Iさんファミリー

去年も参加しました。この植樹祭を通して子供の成長を感じられます。このような体験ができることはなかなかなく、息子もどうして？というはてなをたくさん感じているようです。来年も参加したいと思います。

小堀谷の里・渋川の里の季節を告げるフォトレポート

里のたより

キタ～！　山蜂一群
里のたよりが我が家の庭に

毎年春になると元気な群れは４～５千匹の集団が、庭に置いたプレンティア式ハイブリッド巣に訪れてくれます。ほとんど刺す事のないおとなしい蜂で、暑い日にはこんな風に（写真）門番蜂が巣門の外に並んで巣の中に涼風を扇ぎ入れて子育てをします。なぜか洋蜂は内向きに並んで扇ぎ出す排気方式。不思議なものですね。

里山産品レポート
森からの宅急便

静かに灯る・癒しの光「山蜂の蜜蝋ランタン」

普通のキャンドルは石油パラフィンとステアリン酸という化学物質のワックスを流し込んで作られていますが、このキャンドルは蜜蝋製。純粋な自然素材で作られています。しかも、希少な山蜂の巣を固めたもので、プレンティアの森のコンセプトグッズとして発売を開始します。
希少な素材なので、１ｇ 60 円の量り売りにしています。

TOPICS ★トピックス

ほんものでありつづけたいものたちのために

プレンティアの森 コンセプト・ブース誕生

プレンティアの森の理念をモノでお伝えする為に、野口町に再開した蔵居夢さんの一角に開設しました。効率や合理性といった市場経済の波に流されて消えた《ほんもの》の食材や、素朴な手づくり玩具など、生き甲斐生産によって作り出された里山産品をお届けします。

蔵居夢　静岡県浜松市中区野口町 218-5（遠鉄八幡駅から徒歩５分）

オーガニックフーズ

プレミアム純蜜 220
巣房でじっくりと醸された無給餌蜂蜜です

おおたサンのひろしクン
商品名通りのこだわりたおしのコラボ

テーブル椎茸
部屋で育てるホダ木セット

カルチャーグッズ

安眠キャンドル
蜜蝋ならではの癒しの光

竹とんぼづくりキット
厳選した素材を手仕事で

ログストーブ
ログ自体が燃える エコ・ストーブ

この他にも…

純蜜レモネード	作って楽しみ、味わって持ち帰る素材販売
カリースパイス	プレンティアカレーのスパイスセット
こだわりスモーク	仕込みからスモーキングまで学んで作る
フォレスティングナイフ	森づくりを楽しむ万能型ナイフ
ログパズル	ヒノキチオールの働きで頭の働きがよくなるかも
フォレストタオル	多様な使い勝手でアウトドア必携
ログ・ストーブ	ログ自体が燃えるエコなストーブ　etc.

パラレル・キャリアにチャレンジしませんか！

Let's go on with Dreaming

非常勤のスタッフを募集しています

もしも『余暇時間を活かして人生をより豊かに』あるいは『未来の自分への生きがい投資に』とお思いなら…価値あるチャレンジです。
＊私たちの自己研鑽奨励金制度は、その経済的支援の制度です

森のサブ・カル
『ジビエ』の文化論（7）

ジビエが都市生活者にウケるワケ

すでに書いて来た様に、マタギ料理とジビエ料理との違いの根底にには、マタギとハンターの自然との関わり方の違いがあります。
ハンティングは貴族の娯楽として優雅な発展を遂げてて来たのですが、マタギの猟は農閑期に殺戮と向き合う切実な生活手段でした。
こうした異なる動機が培ってきた（哲学）は、シェフと料理人の食材に対する考え方や、料理技術に大きな違いを生んできました。
ジビエ料理のシェフは雇い人であるハンターの貴族が得た（食肉）を、いかに気に入ってもらえるグルメにするか？だったでしょう。一方、マタギのカミサンは、伴侶が殺して得た（生き物）をいかに生き物臭さを押さえて、貴重なタンパク源として子供たちに食べさせるかという事にあったに違いないのです。

牛肉は発砲プラスティックのトレイに乗ったままオーストラリアの草原を走り回っている訳ではないという事は誰もが知っています。
ところが、草原を走り回っていたはずの牛が、発砲プラスティックのトレイに乗るまでの過程を見た都会人はあまり居ないでしょう。
ヒト社会の欲求が自然やその中で生きる動物たちの生態と隔絶するに従って、生き物への思いより、一滴の血の跡も見せずにトレイに乗る（食材としての良否）だけが大きな関心事に変わったのです。
それが、ジビエという言葉の響きだけを味で競った料理が、都市生活者にウケるワケでもあると言えるでしょう。
そうした関係性の変化は、『ごちそうさま』が本来の（自分の命の為に死んだ生き物への感謝）ではなく料理を作ってくれたヒトへの感謝の言葉に変わってしまったという事にも象徴されています。
こうして面倒くさくて、肉まで臭いマタギ肉やマタギ料理はすっかり消えてしまい、ジビエやジビエ料理は生き残っているのです。
食材への思いに哲学が介在するには、関係性の回復が必要です。
本号のこの『ジビエの文化論』の最終稿にもう一度、
阿仁マタギの山田仁嗣さんの言葉を再掲して終わります。
『オレはハンターではねぇ、マタギなのしゃ。山を歩きながら自然の中にある人間の、せつねえほどちっちゃな姿を見つめて来たすな。オレは誰に頼まれたわけでもねぇ、自分の生き方としてマタギをはじめたすからな。』

INFORMATION
季刊プレンティア用のラックをご活用ください

CSR 活動をより多くの方にアピールできるよう、季刊プレンティアをエントランスや受付窓口に置きたいけれども、ラックがないので置いておけない…とお悩みの協賛企業･団体の皆様に朗報です。各社の森のロゴが入ったラックをご用意いたします。イベント期間のみの貸し出しもできますので、お気軽に事務局までご相談ください。　※数量に限りがありますのでお早めに

編集後記 イチ・オシ

『平成』から『令和』に変わって早２ヶ月。季刊プレンティアも題字の部分を変えてみました。森をイメージした柔らかな印象です。いかがでしょうか？
右の写真は「どんぐりの里親 2018」で秋に植えた里子たち。「絆の集い」で森に帰ります。

私達の活動は地域の企業や団体の協賛に支えられています。

無給餌の純花蜜・蜜蓋の酵素熟成 プレミアム純蜜 プレンティアの森　里山産品プロジェクト

あなたの夢に、追い風を。 浜松いわた信用金庫

環境にやさしい光で次代を拓く人材の育成 光産業創成大学院大学

環境経営・技術は自然への優しさから！ 株式会社ウチゲン

「ひとの思い」も活かしたい。人にも地球にも 小林クリニック 院長　小林　正人

“自然”から学びつづけよう！・・・　人も企業も、お役に立ててこそ栄えます。 株式会社サカエ 〒430-8691 浜松市中区野口町336 TEL(053)461-4521 http://www.sakae-jp.com

Afforest Printing ～緑付する印刷～ ユニオン印刷株式会社 静岡県浜松市南区大柳町851番地 TEL:053-443-7781 FAX:053-443-7780 印刷費の一部を植林活動に寄付しています

HOUSE TRAD www.housetrad.com TRAD HOUSE　TRAD FURNITURE　&　TRAD LIFE　Special Order !!

“明日”を探して今日お届けします。 株式会社 MAP

ひとにやさしい食品を、自然に優しい物流で・・・ AGグループ清風会 http://www.honor.co.jp　http://www.agskk.jp

私たちのセルフ・カーボンオフセットです 渋川の里 不二総合の森 不二総合コンサルタント株式会社 〒433-8112 静岡県浜松市北区初生町889-2 http://www.fujisougou.co.jp

循環型社会を目指して 天竜小堀谷 リサイクルクリーンの森 株式会社リサイクルクリーン 〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣41 TEL053-925-1366

永く安心して暮らせる住まいづくり 天竜小堀谷 アイジーの森 株式会社 アイジーコンサルティング 〒430-0906 静岡県浜松市中区住吉4-9-5 http://www.ig-consulting.co.jp

職人品質を、もっと身近に。 アキュラホーム 株式会社アキュラホーム浜松支店　℡：053-445-6220　http://hamamatsu.aqura.co.jp

明日を探して、今日お届けします。 渋川の里 MAPの森 株式会社 MAP http://pienteer.com/

環境と共生する豊かな社会の実現にむけて・・・ 天竜小堀谷 エフ・シー・シーの森 株式会社 エフ・シー・シー http://www.fcc-net.co.jp/

技術は環境と共生で生きる… 天竜小堀谷 アツミテックの森 株式会社アツミテック 〒433-8118 静岡県浜松市中区高丘西四丁目6番1号 TEL（053）438-6711 http://www.atsumitec.co.jp

新しい価値を創造する・・・ 天竜小堀谷 丸山コーポレーションの森 株式会社 丸山コーポレーション 本社／浜松工場　浜松市南区寺脇町710　TEL053-441-1937 http://www.marco.co.jp／

蘇れ！日本の原風景 もりぢから 森力の再生 森づくりC.S.R.トラスト 静岡県西部森づくりCSR協働推進協議会

さとぢから 里力の復活 N.P.O. 小堀谷の里の会

GR サポーター
・ギャラリー蔵居夢
・北村農園　・やらまいか堂

《季刊プレンティア vol.13》 発行日：2019 年 7 月 10 日　発行人：水野　博　発　行：NPO プレンティアの森　編　集：遠藤小百合、山口貴弘、高柳祥治、池川　寛、北村孝義、杉田虎臣、中島隆太、河合敦子